

編集



同文書院記念報第十一号をお届けする。

本号は二編の力作のレポートを収録できた。そのうち一つ目は本学短期大学の佐々木享教授の「東亜同文書院入学者の群像」である。教育史関係に多くの研究業績をもつ同教授が、本学に保管されている書院生の学籍簿を用い、入学システムと入学生の入学方法については書院史や書院明した成果である。従来、この件については書院史や書院卒業生達の口から、一定の傾向は知られていたが、具体的なデータによって明らかにした点は書院史にも新たな成果を加えたものとして高く評価されることだろう。同教授は本年（二〇〇三年）三月で定年を迎えられるが、退職の記念講演会でもこのテーマで御発表いただき、参加者に関心を湧き起した。

二つ目は故後藤峰晴氏の「『東亜同文書院』関係資料調査記」で、これは同氏がかねてより書院が日本へ引き揚げの際、現地に残された図書資料の行方に関心を持ち、まだ中国側の情報開示が不十分な時代に中国各地の図書館関係を訪ね、その片鱗にようやくめぐりあった時の貴重なレポートである。今日ではその行方はほぼ明らかになっており、今後それらをどのような形で世に出すかについては当

センターを含め課題として検討中である。それにしてもこのような成果をあげつつあった同氏が急逝したことは本学および書院の今後にとって極めて残念なことである。当レポートを同氏の遺稿として世に示し、あわせて御本人の御冥福を祈りたい。

最後にトピックスとして、当センターへも温かい目を注いでいただいている中島寛司氏の書院賀詞交歓会のレポートを収録させていただいた。こちらからのお願いに快く応じていただいた中島氏に厚くお礼申し上げます。

なお小生、昨秋より今泉前所長の後任として当記念センターの所長に就任することになった。当センターの発展を図りたいと願っているので、ぜひ皆様方の御協力をお願いし、ごあいさつとしたい。

所長 藤田佳久